

a 学校教育目標	夢と志を抱き、ともに未来へ挑戦	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)〇志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 〇児童の確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成する学校 〇自己研鑽に励み、子供に寄り添い、チームワークを大切にす教職員 〇保護者・地域に信頼される学校 【育成をめざす資質・能力】 〇課題発見・解決能力 〇コミュニケーション能力 〇主体性 〇自己理解
----------	-----------------	----------------------	---

c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	自己評価				k 結果と課題の分析	改善方策	評価			l 学校関係者評価 コメント	
					7月	2月	i 達成度	j 評価			改善方策	イ	ロ		ハ
					h 達成値	h 達成値									
確かな学力 学び方の獲得と確かな学力の向上を図る。	(1) 基礎基本の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎教職員の授業力向上(ファシリテーターとしての教師の役割) ・児童の「主体的な学び」を実現する授業づくり(複式学級を見据えた授業スタイルの確立、確かな「学び合い」の展開、ICTの効果的な活用、振り返りの充実「R80」の実施) 	・「ファシリテーターアンケート」において、目標値(平均70%)を達成した教職員の割合	80	87.5	87.5	109	A	ファシリテーターアンケートにおいて、目標値を達成した教職員の割合は、87.5%で目標を達成した。前期と数値は変わらないが、項目ごとに見ると、どの項目においても、7月に比べ、肯定的な回答をした教員の人数が増加した。特に、「授業の終わりに今日の学びや自己の成長について振り返る時間を設けたか。」の質問では、7月と比べ12月では、8%上がっている。これは、どの教員も教師のファシリテーター7項目を意識しながら授業づくりを行った結果だと考える。	引き続き、各種調査やアンケート等で課題を分析し、教師のファシリテーター7項目を意識した授業づくりや実践を組織的に進めていく。				5	
			・単元末テスト平均正答率	低学年:90 中学年:85 高学年:80	低:89.3 中:84.7 高:87.5	低:90.4 中:84.3 高:85.8	低:100 中:99 高:107	A B A	単元末テストの平均正答率は、低学年と高学年は目標を達成した。教科別に見ると、国語科では、6学年中5学年、算数科では、6学年中4学年が目標を達成している。国語科、算数科どちらも思考力・判断力・表現力に課題がある。学年によっては、1学期と比べ数値の上まっているところがあるが、課題の見られる領域や内容等があるため、重点的な指導や個別指導等、細やかな指導が必要である。	今後も継続的に次のような取組を行う。日々の授業では、児童が主体的に学べるようにするために、児童のつまずきを予想し、具体的な手立てを考え、個の実態に応じた指導を目指す。また、ドリルタイムでは、引き続き、基本的な計算力を高めるために全校で計算王に取り組んだり、漢字小テスト、読み上げ計算、前学年や現学年の復習に取り組んだりする。その際、課題の見られた領域や内容を担任が意識し、丁寧に解説したり、指導したりしていく。	5			〇読書については、アンケート結果を来年度の取組に生かしてください。協議会の席で意見として挙がった「上級生が下級生への読み聞かせをする」という意見にも興味を持った。 〇完全複式学級に備え、何が活動する必要があるのか。 〇課題や問いに児童がグループで話し合い、意見や答えを発表させ、それに対して先生が評価し進めていく授業は、ディベート方向上につながる授業でとても良い。 〇全校で計算王や漢字小テスト実施等の取組が、学力調査で全校区平均以上の達成率だった一因とも考えられ、さらに工夫することで、学力向上が期待される。	
			<ul style="list-style-type: none"> ◎繰り返し学習の改善・徹底による学力の向上 ・学力調査、学習環境の結果分析をもとにした取組の実践 ・家庭学習の改善・工夫 	・学力調査(12月実施) 全国平均に対する学力	101		国:108% 算:113% 理:105%	国:107% 算:112% 理:104%	A	学力調査において、全国平均に対する学力の達成率は国語108%、算数113%、理科105%で目標を達成した。学年別、教科別に見ても、どの項目も目標を達成している。しかし、課題となる領域や内容があるため、理解度に応じた指導の工夫を行う必要がある。	今回の結果から見えた課題をもとに、各クラスで児童につけたい力を再度確認し、授業改善を図る。	5			〇読書は冊数だけではなく、児童が「この本最高、広めたい。」と思う本を読ませ、週末にその本の広告(インフルエンサー)的な発表をさせるのも良いと思う。 〇複式学級を見据えた授業スタイルの探究。少人数だからこそできる長所や、逆に少人数だから不十分になってしまう短所などを分析して、視点をかえてみることもありだと思ふ。 〇デジタルメディアの普及によって、活字離れが懸念される。読書の楽しさ、おもろさをつかむことができるといい。いろいろな取組がされているので、ぜひ継続してほしい。 〇授業の振り返りをするだけでなく、それを発表させる事で自分では気が付けない事も発見できて、とても良いと思った。児童数も少ないため、全員が発表できることも良いところだと思ふ。 〇もっと読書をする児童が増えるように思ふ。高学年が低学年に読み聞かせをする等の時間を設けるのも良いのではないかと。
豊かな心と元気な体 健やかな体と豊かな人間性を培う。	(1) 基本的な生活習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活習慣の改善を図る取組の実施 ◎挨拶・清掃・靴揃え、机の整理・整頓の徹底 	・学期に1回生活改善習慣のアンケートを行う。就寝時刻を守れた児童の割合 メディアコントロールできた児童の割合	80	95.3 88.4	94.4 91.7	118.0 114.6	A A	・就寝時刻、メディアコントロールとも目標値は達成している。就寝時刻は、どの児童も一般的に適正であるとされる目安の時間設定ができており、目標値も達成され、高い水準で安定しているといえる。メディア時間はさらに数値が上がって改善の傾向も見られ、個別の目標値も長い児童が減ってきている。	・設定目標値、達成度ともに良い結果が得られている。今後も、改善週間のみにとどまらないよう、定期的に声をかけをしていく。課題のある児童に対しては、個別にも声をかけていく。懇談で保護者と話したりなど、機会をとらえて取り組みを進めていく。	5			〇体を動かすことへの取組にもう少し工夫が必要かと考える。スポーツへの関心がある様に、CSでアイデアを出し合ってもいいかと思ふ。	
			・学期に1回アンケート調査を行い、肯定的評価をする児童の割合 肯定的評価をする教職員の割合	85 80	87.5 78.6	85.3 79.5	100.4 99.4	A B	・児童の評価は総じて目標を上回っているが、前期に引き続き整理整頓の項目だけは下回っている。(73.9) ・教職員の評価は、前期よりは上がったが、2項目(あいさつ、整理整頓)で目標値を下回り、目標にはわずかに届かなかった。 ・挨拶については、教職員の評価はまだ低く、いつでもどこでもできるとはいえない児童が一定数いると考える。	・あいさつは児童会をはじめ、各級でも目標を設定するなど取り組んでいたが、まだまだ様々な場所、時、人に応じてあいさつできるまでには至っていない児童も少なからずいる。今後も全職員で意識的に声をかけていく。 ・整理整頓については、週明けや週末など、定期的な声かけとともに、個別に実施を変えていく取り組みを進めていく必要があると思われる。	5			〇メディアコントロールについては、成果が出ており良かった。引き続き、よろしくお願いします。 〇地域行事に参加することで、挨拶が年々できるようになっているので、行事参加等の積み重ねで、さらに挨拶が出来るようになると思う。 〇自分の「よいところ」は、チームでゲームやスポーツ等を行う時によく目立つ。チーム内で友達に評価してもらって分りやすいと思う。	
			<ul style="list-style-type: none"> ◎主体的・探究的学びを行動につなげる道徳教育の実施 ・考えを深める道徳の授業づくり ・学びを行動につなげる道徳教育の実践 	・道徳の児童アンケート項目において、肯定的に回答した児童の割合	85	78.3%	78.1%	92.0%	B	・児童アンケート10項目の平均は78.1%で目標値を下回った。 ・特に「自分にはよいところがある」と思う項目が53%、「自分のよさがまわりの人から認められている」と思う項目が60%と低い。この数値は1学期末の結果とほぼ同じであった。 ・道徳科の授業についての5項目の平均は84%で、目標値を僅かに下回った。上半期の数値は85%で、ほぼ同じであった。しかし、学年によってばらつきがみられる。上半期より「道徳科の勉強は好きだ」「自分の生活にいかしている」の項目が下がっている。「自分のことを振り返りながら考えている」「自分の考えを深めたり広げたりしている」の項目が上がっている。授業改善の成果が出ている面もあるが、十分でない面もあると考える。	・2学期以降「自己肯定感を高める」取り組みを重点的に進めてきた。しかし、数値には変化がなかった。今後も、自己肯定感を高める取り組みの実践を行っていく。 ・道徳科の授業については、引き続き「主題に向かって考えを深める」「学びを行動につなげる」といった視点をふまえた授業改善を行っていく。	4	1		〇体を動かすことは、長い休み時間に、グラウンドで遊ばせるように働きかけると良いと思う。 〇生活改善習慣を身に付けるのは、家庭の力が大きいと思う。 〇自己肯定感を高めるために成功体験や良い所を見つけるなど、自信をもてるように時間を増やす。自分で好きになる時間。 〇学校で体を動かす時間を増やすことで自然と就寝時間も早くなると思ふ。
(3) 健康の保持・増進と体力の向上を図る。	◎体力づくりと食育の推進	・体を動かすことが楽しいと感じる児童の割合	90	90.5%	91.3%	101.4	A	・達成率は91.3%となり、目標値を上回った。前期の達成値と比較しても微増している。児童の身体活動に対する意識は高まってきていると考えられる。	・「体を動かすことは好きではない」と回答している8.7%の児童に対する働きかけが今後の課題となる。(体育の時間が好きである)項目の否定的回答児童率13%もいることから、体育や体育朝会を中心に児童一人ひとりが運動の楽しさを実感できるような支援・指導を行っていく。	5			〇日常生活で友達の良い所を見つけるようなゲームをしても良いかもしれないと思う。 〇先生も児童の良い所はどんなその時に声に出して伝えてほしい。		
		・食べ物や食事を作る人に感謝しながら食べる児童の割合	90	90.5%	91.3%	101.4	A	・例年は低学年の数値が低いが、今年度は数値が高く目標値を達成した。継続して生活科やCSとの関わりや栄養教諭による食育指導により、食材や人への感謝の気持ちが高まっている。	・今後も継続して食育指導や、給食指導、生活科などの関連単元において、学習を積み上げていく。また、否定的評価の児童は固定化しているため、給食時間に個別に声をかけていく。	5					
		・保護者アンケートによる「各通信やホームページなどで、児童の頑張りを学校の様子が分かる」の肯定的評価は90.2%で目標値に達したが、5ポイント下がっている。	90	95.2	90.2	100.2	A	・保護者アンケートによる「各通信やホームページなどで、児童の頑張りを学校の様子が分かる」の肯定的評価は90.2%で目標値に達したが、5ポイント下がっている。	・写真を取り入れ、児童の日常の様子がよく分かる学校だよりや学年通信の定期的な配信、HPへの計画的な掲載を継続していく。	5			〇学校だよりが写真も多く、地域へのPRにもなっているため、CSの周知のためにも、今後も継続して行ってほしい。 〇防災学習では、児童の皆さんに興味をもってもらえて良かった。全校児童で野菜づくりをして、皆で食べると楽しいだらうなと感じた。		
信頼される学校 保護者・地域とともに児童を育てる学校づくりを推進する。	(2) 幼保・小・中連携の充実を図る。	◎こども園等・小学校・中学校との連携による系統的・組織的な教育の推進	・学校運営協議会委員における肯定的評価4段階で、3.2以上	100	-	100	100	A	・学年2回の「地域のたから」を活用した授業の実施については、全校で行った「ふれあいフェスティバル」、各学年での「さつまいもの収穫と冬野菜の苗植え(1・2年)」「防災学習(3・4年)」「福祉施設の方の語(5年)」「和楽器体験(6年)」等、後半も、2回以上の実施ができた。児童アンケートで「須波の地域に貢献・行動したいと思う」児童の割合は、84.8%で2つの達成率を平均すると92.4%であった。	・夏休みに行った第1回地域学校協働本部協議会で、地域の方、保護者、教職員が顔の見え関係になり、年間を通して、豊かな教育活動を行うことができた。今年度の活動を振り返り、より児童の学びを深める教育活動になるよう、改善を図っていく。	5			〇小中連携については、これから色々考えさせられると思う。高校は統合されるようだが、小中学校はどのような方向に進むのかにもよると思う。 〇毎月、児童のイベントや授業風景が見られる「学校だより」は楽しみにしている。	
			・「連携や交流等は、お互いの理解を深めるものとなっている」と回答した教職員の割合	80	90.9	100	125	A	・2・3学期には、小中合同での社会見学(平和学習)、小学校のブロック公開研究会への参加、中学校体育教諭による5・6年生への陸上教室、第3回小中連携協議会等を実施した。また、幼保小連携として、幸崎保育所への回りの見学(2名)を実施した。「連携や交流等は、お互いの理解を深めるものとなっている」と回答した教職員の割合は100%、連携を生かした取組を進めようとする教職員の割合は100%で、どちらも目標値を達成した。	・児童数・生徒数が減少する中、どのような小中連携の持ち方が児童・生徒にとって有効かを考え、来年度につなげていく。 ・地域に幼稚園や保育所が無いという実態の中で、幼保小連携の充実に向けて何が出来るかを模索し、研修後の情報共有、次年度入学生に関する情報収集、事前連携、入学説明会での体験活動の実施等、できることを考え進めていく。	4	1		〇知校や地域の方とのさまざまな交流を通して、教科書以外の知識も取り入れられ、自分の住む地域への愛着が増し、地域の行事に参加し貢献しようとする児童が年々増えている。地域に開かれた学校により、児童らが多面的な分野での能力の向上が出来る。	
			・連携を生かした取組を進めようとする教職員の割合	80	100	100	125	A	・計画的・協働的に業務を遂行できた教職員の割合は、90.9%で目標値を達成できた。見直しを持った各自のスケジュール管理、部での進捗確認をしながら業務を進めることができた。また、突発的な事案にも組織的に対応することができた。	・今後も各部や分掌担当で、スケジュール管理表を確認しながら、見直しを持って業務にあたり、児童と向き合う時間確保につなげる。 ・お互いの業務状況を意識しながら、協働的に業務が進められるよう、しっかりとコミュニケーションを図りながら業務を進めていく。 ・引き続き業務改善を進めるとともに、授業時数の見直しやCSの活用等を行い、時間確保を図る。	4	1		〇地域の方々の協力で、たくさんの体験ができたと思ふ。 〇学校と家庭と地域が子供達に向き合うことで、子供達が成長し、時を経て、感謝や地域貢献の心が育まれていくと思ふ。まずは、私たち大人の方の姿を見せていくことだと思ふ。頑張りますよ。	
(3) 「働き方改革」の推進を図る。	◎主体的に業務改善を図り、計画的・協働的な業務の遂行	・計画的・協働的に業務を遂行できた教職員の割合	90	72.8	90.9	101	A	・計画的・協働的に業務を遂行できた教職員の割合は、90.9%で目標値を達成できた。見直しを持った各自のスケジュール管理、部での進捗確認をしながら業務を進めることができた。また、突発的な事案にも組織的に対応することができた。	・今後も各部や分掌担当で、スケジュール管理表を確認しながら、見直しを持って業務にあたり、児童と向き合う時間確保につなげる。 ・お互いの業務状況を意識しながら、協働的に業務が進められるよう、しっかりとコミュニケーションを図りながら業務を進めていく。 ・引き続き業務改善を進めるとともに、授業時数の見直しやCSの活用等を行い、時間確保を図る。	4					
		・月45時間以内の業務遂行	90	85.4	81.8	90.9	B	・45時間以内の業務遂行は、81.8%の達成率であった。							

【:】自己評価 評価
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60
【I:】学校関係者評価 評価
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。 ハ:分からない。